2018年（平成30年）2月5日 月曜日 第626号（毎週1回発行）

本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）

パチンコ・パチスロ業界最新情報
週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
2018年（平成30年）2月5日 月曜日

編集・発行所 株式会社アミューズメント プレス ジャパン 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアリスト5F TEL.03-5447-0555 http://www.amusement-japan.co.jp

Weekly Amusement Japan
©2018 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing
Amusement Press Japan
planning & production
Amusement Promotion
printing
Four Plus One
年間購読料27,000円（税・送料込）
本紙記事の無断転載を禁じます。

おかげさまで創立20周年
APJ 20th
ESTABLISHED IN 1998

今週の紙面から

ドラム海にBLACK襲来
「CRドラム海物語BLACK SBC」
三洋 2面

これぞ一発台パチスロ
「ドリームクルーン500」機種説明会
オーイズミ 2面

増えるRT搭載したAタイプ
「ビッグアップ」内覧会
ヤーマ 2面

コミュニティサイトOPEN
KYORAKU 2面

plus 居酒屋JAPANに出展
「Neo Plus抗菌トイレマット」 2面

人生の1割くらいは、遊んでいい。
NISHIJIN 3面

Spiky 4面

パチンコ・パチスロ産業 賀詞交歓会
最重要課題は依存対策

パチンコ・パチスロ産業の関連1団体は1月30日、東京・港区の第一ホテル東京で賀詞交歓会を開催。このなかで、パチンコ・パチスロ産業21世紀会（以下：21世紀会）の阿部恭久代表は「今年も依存対策を最優先で取り組む」と述べ、これまで業界が取り組んできた依存問題対策をさらに強化、推進していく考えを示した。

賀詞交歓会の冒頭、21世紀会の阿部恭久代表（全日遊連理事長）が挨拶。昨年来業界が取り組んできた依存問題対策について、業としての社会責任を全うするという理念のもとで、依存問題対策を行うという固い決意表明を行ったと」と振り返った。

依存問題対策の中で全日遊連が主体となって推し進めてきた「安心パチンコ・パチスロアドバイザー制度」について、「世界でも類を見ないこのシステムをさらに推し進め、お客様に安心して遊んでいただける環境を提供して参いきたい」とさらなる依存対策強化に意欲を示した。

このほか自己申告・家族申告プログラムの拡充など、従来の施策を強化するとともに、未着手の対策案についても推し進めていく考えを示したうえで、「今年も私たち遊技業界は、一丸となって依存問題対策を最重要課題として取り組んでいきたい」と、団体間の垣根を越えた団結の必要性を訴えた。

来賓として挨拶した警察庁生活安全局保安課の山田好孝課長は依存問題について、「国会や報道などで大きく取り上げられるなど、的確な対応を迅速に進める必要がある」とした上で、間近に迫った改正規則施行について「パチンコが健全な娯楽になるための取り組みをよりいっそう推進されることを期待している」と述べた。

日遊協の庄司孝輝会長は1月18日にNTTデータがLINEを活用したギャンブル依存症問題に関する啓発サービスを開始したことに触れ「このサービスのリリースには日本国内にギャンブル依存者が約332万人いるように書かれている。これは昨年、厚生労働省研究班が、生涯で依存症経験が疑われる人数」として発表した数値。昨年、日工組社会研の調査では、直近1年で遊技障害の疑いがある人が約7万人という結果が出ている」などとしてエビデンスに基づいた正確な情報を発信していくことが重要だとした。そして、業界団体が結束し、行政とも緊密に相談しながら、この難局を乗り越え、10年先、20年先を展望しながら、健全な姿で営業・成長していくことが大切だ」と述べた。

また、賀詞交歓会では昨年5月からRSNに出向していたホール従業員が業務報告を行った。21世紀会では昨年、RSN機能強化の一端として、各都府県方面遊協からホールの社員を出向させ、のめり込みの問題を抱える本人や家族からの電話相談に対応することを決議、「業務報告」をしたのは、第一次出向者。

業務報告を受け、RSNの西村直代表は「我々の人手不足を補うために、ホール企業の従業員を出向させようというお話を頂いた時、ありがたいと思った一方で、正直どうなるのかも思っていた」と当初不安を抱えていたことを明かし、「だれは昨年、厚生労働省研究班が、生涯で依存症経験が疑われる人数」として発表した数値。昨年、日工組社会研の調査では、直近1年で遊技障害の疑いがある人が約7万人という結果が出ている」などとしてエビデンスに基づいた正確な情報を発信していくことが重要だとした。そして、業界団体が結束し、行政とも緊密に相談しながら、この難局を乗り越え、10年先、20年先を展望しながら、健全な姿で営業・成長していくことが大切だ」と述べた。

また、賀詞交歓会では昨年5月からRSNに出向していたホール従業員が業務報告を行った。21世紀会では昨年、RSN機能強化の一端として、各都府県方面遊協からホールの社員を出向させ、のめり込みの問題を抱える本人や家族からの電話相談に対応することを決議、「業務報告」をしたのは、第一次出向者。

業務報告を受け、RSNの西村直代表は「我々の人手不足を補うために、ホール企業の従業員を出向させようというお話を頂いた時、ありがたいと思った一方で、正直どうなるのかも思っていた」と当初不安を抱えていたことを明かし、「だれは昨年、厚生労働省研究班が、3カ月間での成長ぶりに非常に驚いた。これまで四半世紀精神保健の仕事をしてきたが、こんなに早く対応ができる人は初めて。相談者はパチンコが好きで止められないまたは何か問題が起きている人相談を受けた人はパチンコが好きでこの業界にいる人。お客様の顔を思い浮かべながら相談を聞いてもらえるというのが、最もあるべき姿ができたからだと思う」と出向者が期待を上回るいい意味でショックだった。

さらに西村氏は公営競技とパチンコの違いについて、「公営競技はインターネットで参加できる。パチンコは定められた時間のなかで、自分の好きなホールに足を運んで直接参加する遊び。お客様とスタッフとのコミュニケーションが重要。これは依存対策ではなく、お客様サポートなんだなとつくづく思った。アドバイザーは他の公営競技ではできないパチンコ業界だからこそできた世界に誇れる制度だ」と総括した。

（左から）PSA 小堀理事長、認証協 吉村代表理事、PCSA 加藤代表理事、余暇進 笠井会長、同友会 東野代表理事、メダル工業会 大泉理事長、補給組合 梁川理事長、自工会 古宮理事長、回胴遊商 大愛理事長、全商協 林会長、日電協 佐野理事長、日工組 筒井理事長、日遊協 庄司会長、全日遊連 阿部理事長

全日遊連 阿部理事長

警察庁生活安全局保安課 山田課長

RSN 西村代表

都遊協 定例理事会
遊技環境の再構築を

東京都遊技業協同組合は1月24日、都内の東京ドームホテルで定例理事会と賀詞交歓会を開催。

阿部恭久理事長は冒頭挨拶で、目前に迫る規則改正について、手軽に安くプレイする遊技環境を再構築する大きなチャンス」と述べ、悲観的に捉えないで前向きな考え方の重要性を示した。

規則改正に伴って店舗管理者に義務付けられる依存対策の関連事項で、安心パチンコ・パチスロアドバイザーの受講者が1万6000人を超えたことが報告された。阿部理事長は「今後も常時アドバイザーが店舗にいるような体制をつくれるように」理解と協力を求めた。一方、広告宣伝については「社会から不快感をもたれる状況が国会審議、都議会審議にどれだけの悪影響になるのか、今一度お考えいただきたい」と、組合員に訴えた。

理事会では、全日遊連理事会における警察庁保安課長の講話の読み上げや、東京都の受動喫煙防止条例案に対する署名活動結果の報告、新基準に該当しない回胴式遊技機の設置比率調査の結果報告などがなされた。署名活動では店舗での署名4000筆を含む全17・8万筆が集まった。設置比率調査では都内に30%を超える店舗はなかったという。

人大分合同福祉事業団の「歳末助け合い募金」に10万円を寄付した。

この日は、大分市の大分合同福祉事業団に大分県遊協の力武一郎理事長が訪問、寄付金を同事業団の衛藤良司事務局長に手渡し、感謝状が贈られた。

大分県遊協では「これからも積極的に助け合い活動を行っていきたい」としている。

歳末に10万円寄付
大分県遊協

10万円を寄付する大分県遊協の力武理事長（右）

タイホウグループ総会
転換期を好機に変える

愛知県内でホール18店舗を運営するタイホウグループは1月23日、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋で「第49期タイホウ倶楽部総会」を開催。社員50人と取引先企業など関係者240人が参加した。

冒頭挨拶で小野直彦代表は「原点に帰り、「誠実」に「正確に」「迅速」を重視して仕事・接客を行ってきた。タイホウブランドの構築に取り組む、業界の変化を好機と捉え、新規客の創造を目指す」と今年の指針を語った。

総会では代表の個人献金として愛知県や名古屋市、宮城県塩竈市、名古屋第二赤十字病院、劇座、ダスキン愛の輪基金、名古屋フィルハーモニー交響楽団の7団体に計300万円を寄付した。

挨拶をする小野代表（左から2人目）と小野祐輝取締役

紅白オペラ合戦に協賛
遊楽

「ガーデン」などの屋号で関東にホール30店舗を展開する遊楽さいたま市浦和区は、12月4日に都内のサントリーホールで開催された「第2回オペラ歌手紅白対抗歌合戦」声魂真剣勝負～」に特別協賛した。

当日はオペラ界を代表するトップクラスのオペラ歌手が紅白に分かれて歌声とパフォーマンスを披露。

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の演奏に乗せて、1900人を超える観客を魅了した。紅白戦では、紅組に70票の差をつけて992票を集めた白組に軍配が上がった。

白組を勝利に導いた指揮者の村上寿昭氏に優勝旗が贈られた